



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THEYMCA
THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Mission with Faith” 「信念あるミッション」
“Through Love, Service” 「愛をもって奉仕しよう」
「原点に立って、未来へステップ」
「ワイズメンとして一歩前進」
「少しでも前へ進もう そしてあがいてみようこの一年」

2016 年 1 月号

NO 473

主は嵐に働きかけて沈黙させられたので波はおさまった。彼らは波がおさまったので
喜び祝い望みの港に導かれて行った。

詩篇107：29-30

新年メッセージ

会長 大野貞次

新しい年を迎えることが出来ましたことを感謝するものです。皆さん、どのような新年をお迎えになりましたか。

昨年の7月からクラブ会長を引き受けて早いもので半年が過ぎてしまいました。私の標語「少しでも前に進もう そしてあがいてみようこの1年」を主題としてきましたが、すでに半年あがいた割には何も前に進むことができず、どちらか言うと後退しているような気がいたしますが、あと半年あがいて見ます。会員には体調を崩し例会に出席できない方々が多くなりました。

それでもクラブにとってうれしいニュースは木原さんがクリスマス例会に顔をみせてくれたことです。健康を取り戻し活躍されることを祈り願うものです。私もクリスマス例会を無事終わらせることができ、ホッとして体調を崩し、2日ばかり寝込んでしま

いました。

皆さんも健康には十分に気を付け、1月の例会に出席いただくことを祈ります。

7月にはクラブ創設40周年を迎え、記念例会を企画しており、それに向かって準備を進めています。ぜひ皆さんで力を合わせ成功させましょう。そして新しいクラブの歩みを始めましょう。新しいクラブの歩みには新しい力を迎えないといけないと思います。そして新しい力を育てられるようにクラブ体質を変えていかねばと考えています。

それは皆で意見を出し合い、1人の者に頼るのではなく、1人1人がもっている力を合わせ、前に進めることが大切ではないかと思ひます。あまり多くのことを望むのではなく、小さなことでも地道に新しいコミュニティ・サービスを生むことが出来ればと考えます。がんばりましょう。

新春・川崎大師と川崎宿

WHO ウォーキングの初歩きは、東海道五十三次の川崎宿跡と川崎大師です。今年も初詣の人数が話題になった川崎大師は、節分までは賑わうそうです。

期 日：1月23日（第4土曜）

コース：JR 川崎駅ー＜バス＞ー

八丁堀ー芭蕉句碑ー東海道・川崎宿跡（教安寺・佐藤本陣跡・宗三寺・田中本陣跡ー交流館）ー六郷の渡し跡ー港町駅ー＜京急＞ー川崎大師駅ー大師参道ー川崎大師平間寺（大本堂・不動堂・八角五重塔・経堂など）ー京急・川崎大師駅

集 合：JR 川崎駅改札口正面
時計台付近 9：45

解 散：京急・川崎大師 14：30

参加費：300円（交通費・施設利用料は各自負担。初回参加料200円）

携行品：昼食、飲み物、雨具

クラブ役員

会 長 大野 貞次
副 会 長 高嶋美知子
書 記 篠原 文恵
会 計 石井 元子
担当主事 小畑 貴裕

12 月 の 記 録				ニ コ ニ コ	9,314 円
在 籍 者 数 17人 (内 功 労 会 員) 1人	メ ネ ッ ト	1人	ク ラ ブ フ ァ ン ド	20 円	
例 会 出 席 者 数 13人	コ メ ッ ト	0人	フ ァ ン ド 残 高	341,727 円	
メ ー キ ャ ッ プ 0人	ビ ジ タ ー	5人	ホ テ 校 フ ァ ン ド	13,000 円	
出 席 率 81%	ゲ ス ト	0人	ホ テ 校 残 高	65,578 円	
前 月 修 正 ー	出 席 者 合 計	19人	W H O 参 加 者	35人	

1 月例会のご案内

今月の強調テーマ： IBC・DBC

今月の卓話は、NPO 法人日本視覚障害者セーリング協会の指導者をお招きして、ヨットのブラインド・セーリングについて、お話をうかがいます。お二人の出会いが、日本のブラインド・セーリングを前進させました。視覚障害者ヨット世界選手権のお話を中心にごうかがいます。

日時：1月21日（木） 18時45分～21時

会場：東京YMCA山手センター101号室

（新宿区西早稲田 2-18-12

TEL/03-3202-0342）

会費：1,500 円（ゲスト、ビジター、メネット）

担当：A 班

石井、木原、篠原、堀内、山田（紀）、吉田

HAPPY BIRTHDAY

7 日 石井 信雄 15 日 小山多喜子

16 日 堀内 浩二・小畑 晶

19 日 石井 元子

開会点鐘

ワイズソング

聖書朗読・感謝

挨拶と紹介

会食と歓談

受付 石井 元子

司会 篠原 文恵

大野 会長

一 同

山田 紀子

大野 会長

一 同

卓話 「風は誰にも見えないーWhat does the wind do when it does not blow?ー」

NPO 法人日本視覚障害者セーリング協会

元会長 竹脇 義果氏

元副理事長 飯島 賢司氏

ワイズ報告

大野会長他

YMCA 報告

小畑 主事

ハッピーバースデー

ニコニコ

一 同

閉会点鐘

大野 会長

ー12月事務会報告ー

日時：12月22日（火）

19:00～21:10

場所：荻窪・ピアンタ

出席者：石井、大野、神谷、河原

崎、木原、篠原、高嶋、吉田

<報告事項>

①12月のデータを確認した。

②12月の経常会計を承認した。

③会員の近況が報告された。

<協議事項・例会関係>

▲2月TOF例会

日時：2月18日（木）

18:45～21時

会場、内容：候補者を了承し、交渉することにした。

担当：B班 神谷、竹内、河原崎、高嶋

▲3月合同例会（東京世田谷C）

日時：3月17日（木）

18:45～21時

会場：山手YMCAセンター

卓話：昭和大学名誉教授・岡松孝男先生（小児外科）「カンボジアに小児外科を設立するまで」

担当：C班 山田（利）、小畑、小山、鳥越、本川

<協議事項・例会以外>

①区CS事業補助金の申請：

今年度は行わない。

②2016-2017年度、次次期理事候補者推薦の件：該当者なし。

③ブリテンは現在約100通郵送しているが、メール発信が主流になってきているので、送付先、送付方法を次回の事務会で検討する。

④クラブの封筒の仕様を変え、発注を決めた。

⑤国際会長の選挙について、区からの公告を回覧した上で、投票は会長に一任した。

⑥事務会に引き続き40周年準備委員会を行い、下記の件を協議した。予算案、講演講師、ホテル学校奨学奨励金受給者の出番、今年度の贈呈式、アトラクション。（書記・篠原文恵）

会計からのお願い

下半期の会費を例会に持参か、振り込みでお願いいたします。

振込先：みずほ銀行方南町支店
普通預金 8027928

卓話者紹介

飯島賢司（いいじま・けんじ）氏

1957年横浜市立大学ヨット部に所属。卒業後、電気興業(株)に入社。1971年、日本高周波技研工業(株)を設立、現在、会長。1996年、日本視覚障害者セーリング協会に所属、副理事長に。1997年に英国ウエイマスのブラインドセーリング世界選手権に監督として出場するなど活躍し、2013年、日本で行われた世界選手権大会では、実行副委員長をつとめた。

竹脇義果（たけわき・よしみ）氏

1961年、在学中の青山学院大学にヨット部を創設。1962年にアナウンサーとして、ラジオ関東に入社。仕事の傍らセーリング活動を行い、1996年、日本視覚障害者セーリング協会を設立、会長に就任。1997年、英国ウエイマスの世界選手権で銅メダルを獲得するなど競技者としても活躍。元乃木坂スタジオ社長。



(上) 12月17日に中野サンプラザで開いたクリスマス例会
(右) WHOウォーキングの歩き納め。新宿・花園神社



ー12月クリスマス例会ー

今年のクリスマス例会は中野のサンプラザが会場だった。来年の40周年記念例会の会場となるので、その前にクラブのメンバーで体験する目的があった。

同じテーブルに着いたホテル学校校長の小畑貴裕さんは、夜景がきれい云々言っている我々とは違い、洋食料理に中華料理のような卓を使っていることに感心していました。

例会は大野会長の点鐘ではじまりました。プログラムは3部に分かれていて、2部でワイズディナー話を小畑主事にしていただくことになっていましたが、1部に変更して話していただきました。

まずホテル学校の生徒は、毎年、実習でためた積立金でヨーロッパに研修に行くのだが、今年はパリでのテロ事件のためヨーロッパ研修はキャンセルすることになったことを話されてから、ご自身のアメリカ遊学中、最初は英語があまりできなくて苦労したこと、日本に帰ってから今に至るまでのことを話されました。

2部は美味しいディナータイム、40周年記念会の料理に思いを馳せながらおなか一杯いただきました。

3部は楽しいビンゴゲーム、プレゼントが大きい、小さい、重い、軽いなど歳を忘れて楽しみました。

大きな手術をされてお休みをしていた木原洸さんが参加されて楽しい会となりました。

またこの楽しい雰囲気をもて来年の40周年につながるようにあと半年、東京西クラブ一丸となって頑張りたいと思いました。

(本川悦子)

出席者：石井、大野、小畑、神谷、河原崎、木原、篠原、高嶋、竹内、鳥越、本川、山田(利)、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞藤井寛敏・祥子(東京江東)、中澤正子・藤江喜美子(東京たんぽぽ)、田上 正(熊本むさし)、＜メーキャップ＞なし

新宿コリアンタウンと花園神社 ー12月WHO報告ー

今年最後のWHOウォーキングは12月19日。JR高田馬場から新大久保、新宿までの山手線沿いのコース。目玉のコリアン街、新宿ゴールデン街、花園神社と見どころめじろ押し。

雲ひとつない青空に冷たい木枯らしが吹く冬型天気の中、総勢35人が師走の町へ出発。

静かな裏通りを抜け、玄国寺へ。庫裏は、岩倉具視の屋敷の一部を移築・改築したもので、立派な鬼瓦に笹りんどうの家紋。すぐ隣の諏訪神社に参拝してから都立戸山公園へ。都心とは思えない広大な敷地内に広場と園路があり、紅葉の残るもみじが美しく、ゆっくり散策。

いよいよ待望の大久保通りのコリアン街へ。最盛期の活気と賑わいはなく、イケメンのお兄さんも見当たらず、拍子抜け。

一気に通り抜けて、皆中稲荷神社へ。「みなあたる」と読むので、年末恒例のジャンボ宝くじを買った人には大人気。山のようにぶら下がった絵馬から、「大当たり」を願う気持ちが伝わってくる。つましく100万円の「当たり」を願う人から、上は10億円。夢は大きく持つべし！

小泉八雲記念公園で少し早目の昼食。日当たりの良い花壇の縁石に腰かけて、おにぎりがおいしい。食後は職安通りのコリアン街にある高麗博物館へ。NPO法人でボランティアの活動によって支えられているとのこと。こじんまりした部屋に展示物が飾られ、チマチョゴリの試着コーナーは魅力的。稲荷鬼王神社には水琴窟が2か所あり、異なる澄んだ音に心が安まる。

コースの最後は、ゴールデン街を通り、花園神社へ。狭い路地の両側に間口1間の飲食店がずらりと並び、一見の価値あり。「バー家庭教師」の看板を見て、思わず笑う。

花園神社で今年1年の無事を感謝し、来年の福を願って解散。

(石井元子)

ワイズ関係の参加者は、石井・吉田(東京西)、中澤・服部・藤江(東京たんぽぽ)でした。

名刺をもって在京新年会へ

在京クラブ新年会が、1月9日(土)午後、京王・小田急多摩センターの桜美林大学多摩アカデミーヒルズで開催されます。多くのワイズメン、ワイズメネットが集い、賀詞交換を行います。

今年は、当クラブにとっては創立40周年を迎え、7月16日に創立記念式典・祝会を予定しています。そのお誘いも兼ねて、クラブから、石井、大野、小畑、神谷、神谷M、篠原、高嶋、本川、吉田さんが参加します。

新調した名刺と、吊りさげ名札をお忘れなく。

この日は、会に先立ち、在京クラブ会長会も予定されていて、大野貞次会長と担当主事の小畑貴裕さんが出席する予定です。

3月は山手センターで 東京世田谷と合同例会

3月は恒例の東京世田谷クラブとの合同例会です。今回は当クラブがホストで、3月17日(木)、山手センターで行います。

卓話は、昭和大学名誉教授(小児外科)の岡松孝男先生です。

小児は、大人と比較し身長や体重が低いだけではありません。すべての面で未発達です。そのような新生児の血管にどうやって注射の針を刺すのか。日本では欧米に比べて小児外科が知られるようになったのは、1980年代といわれています。先生は昭和大学の初代小児外科の教授です。

先生は、国際援助で、カンボジア小児病院の建設と医療技術の指導にあたっておられます。ポルポト政権によってインテリを殺害された国で医療教育をいかに行うのか。興味あるお話がうかがえると思います。

昨年は、世田谷クラブが講演会を全面に打ち出したこれまでにない合同例会を行いました。競うことではありませんが、刺激を受けるのも、合同例会のメリットで

す。友人、知人をお誘いして、賑やかな合同例会にしましょう。

WHOウォーキングが 「コース集」を編集中

WHO(ウォーキング・ホリデー・オギクボ)の例会が、順調にいけば、7月に200回となります。この200回をまとめ、『WHOが勧めるウォーキングコース』として冊子にする作業が進められています。

1987年から時の流れに沿ってまとめることも考えましたが、読みやすい、地域別に編集することになりました。

200回の中では、天候や震災のため参加者が少なく、再度歩いたコースや、季節を変えてほぼ同じコースを設計したこともありますから、全部で170コースくらいにまとまると思います。

それでも市販のウォーキングコースガイドは、ほとんど40コース以下で、100を超える者は見当たりませんから、ちょっとしたものになります。

もっとも、時間の経過によって、交通機関も道も、目印も施設入場の条件も変わっています。最新のデータを取り込むことは、時間的にも経費的にも難しいので、コースだけの情報となります。

いろいろやりくりしながら、7月発行を目指しています。

クラブ40周年記念会の 準備の進行状況

次年度早々に予定している東京西クラブ創立40周年記念祝会の準備状況を報告します。

委員会を6回開催し、やっと姿が見えてきました。

期日：7月16日(土)午後

会場：中野サンプラザ

午前中は、あずさ部評議会が同会場において行われます。

2つの宴会場を使って、1部は記念式典、2部は祝会となります。

記念式典での講演には魅力的

な講演者と交渉中です。アトラクションも検討中です。

会の中で、クラブ独自のプログラムとしてWHOウォーキング、東京YMCA学校奨学奨励金をどう表現するかも検討中です。

参加費 7,000円、IBC、DBCを交えて、150人ほどのなごやかな心温まる会を目指しています。

午餐会講師は柳田邦夫氏

毎月、東京YMCAが開催している午餐会が、新年とあって、「新春特別午餐会」として会場を東京・神田の学士会館に替えて、1月20日(水)12:00~13:30開催されます。

今回は、ノンフィクション作家の柳田邦男さんをお招きして、『いのちの対話する言葉』と題してお話しいただきます。会費は4,000円(昼食付)です。お申込みは、1月12日までに東京YMCA会員事務局まで。

ワイズインタビューの 登場人物の人選

当クラブのブリテンの連載企画「ワイズインタビュー」が、29回になりました。他クラブのワイズメンから、どうやって登場人物を選ぶのかと聞かれることがあります。人選はインタビューアーに一任、KDD(勘と度胸と出たとこ勝負)です。

ただ、原則として、3月は次期理事、5月は区大会実行委員長、6月は次期クラブ会長として、部長は任期中にはお願いしないことにしています。

これまで元理事は3人しか登場していませんが、担当の吉田明弘さんによると、「情報がたくさんあって、事前取材が少なくてもすむ人は、後にとっておいて」とのことです。

来月号は前原末子さん(御殿場)、3月号は利根川恵子さん(川越)を予定しています。

☆☆ インタビュー ☆☆ 金丸満雄さんに聴く

* * *

金丸満雄さんは、東日本区の初代書記でした。昨年度は、関東東部部長を務め、東京ベイサイドクラブの設立にも尽力されました。



一金丸さんが、YMCA のバザーで、焼きソバやモチつきをする時の立ち働く姿は、無駄がなく、ほれほれするほど美しいですね。

「お褒めいただきありがとうございます。動き回ることと料理好きな性格が出てしまい、クレープなど露天商まがいの動きになっていると思います。プラス、先輩メンバーの影響もあったのかもしれません」

一ふだん家で料理を作りますか。
「はい、職場では自炊をすることが多かったので、男の料理ですがよく作りました。今も作ることもあり、即席で創作野外料理は得意とするところです」

一ご出身は、山梨県ですか。

「よくそう言われます。“カネマルさん”“カナマルさん”どっちと、聞かれますが、生れも育ちも東京・池袋の“カナマル”です」
一小学生の時は、どんな子どもでしたか。

「1947 年生れの団塊世代です。丸坊主頭の集団がどの公園にもいて、遊ぶ場所の確保も大変でした。日が暮れる時間まで夢中に遊んでいましたね。月光仮面に少年ジェット！」

一ももとは、どういう仕事をされていたのですか。

「東京都交通局に入局して、都営

地下鉄に勤務していました。特別に鉄道好きなのわけではありませんが、定年まで鉄道一筋でした」
一サラリーマン時代の平日の 1 日は、どんな感じでしたか。

「勤務が終わると、仲間と連なって酒を飲み歩いていたね」
一ワイズの入会は。

「東京 YMCA 東陽町センターの開設に伴って、東京ひがしクラブの設立準備が進んでいる時、義兄の上原修司の甘い言葉に誘われ、わからないまま準備例会、設立総会、チャーターナイトに出席し、クラブの一員となりました。入会後は良くも悪くも義兄のガードが固かったです(笑)。東京ひがしクラブは、東京江東クラブから大勢の移籍組と新人 5 人がチャーターメンバーになりました。1988 年 10 月です。当時のチャーターメンバーは現在 4 人(内広義 2 人)となっていました。さびしい限りです」

一クラブの中に最初から居場所がありましたか。

「はい、皆さんが温かく接してくれましたので、違和感なく自然に溶け込むことが出来ました。酒席も多くいろいろと教わり、学びました」

一今は、東京 YMCA でも大活躍ですね。YMCA やワイズのクリスチャニティーには抵抗がありませんか。

「い～え、活躍など。反対に迷惑人間です。無頓着者ですので抵抗はありません。時には、祈禱を楽しく拝聴しています。」

一東北大震災の時、東京から最初に救援に行かれましたね。

「2011 年 4 月 1 日～3 日にかけ、同じクラブだった関喜一郎さんとハイエースに電動自転車などの救援物資を満載して、仙台 YMCA と亘理地区に行きました。あの時は、急な呼びかけにも近隣クラブの協力で物資が集まり、仕分けと積み込み作業の協力も頂いて、予備のガソリンも積み込み、

夜間に仙台へ直行しました。帰京の途中に、宮城県七ヶ浜と多賀城を経由しましたが、その時の光景が目に残っています。今でも鮮明に浮かびます。1995 年の阪神淡路地震の時も、西宮と三宮の YMCA に 4 トントラック満載の救援物資を運びました。神戸では地震によって押し潰された家屋、東北では津波の破壊力を直接見て、自然の恐ろしさを痛感しました」
一ワイズメンになったために自分が変わったということがありますか。

「そうですね、様々な職種の方々とお会いすることで、知識が広まったこと、そして、上下なく、対等に話をする楽しみが持てたことでしょうか」

一今、ワイズの課題は何だと思われますか。

「会員増強。若い人の入会でクラブの活性をと、よく聞きますが、若いエネルギーも大切な一方、年寄のパワーもすごいです。経験豊富な高年層にもアタックして、会員増強につなげるべきだと思います」

一金丸さんにとって、ワイズでの体験の中で、良い 5 大ニュースは何でしたか。

「う～ん。初代東日本区書記を務めたこと、被災地へ救援物資の運送したこと、第 11 回東日本区大会実行委員長を務めたこと、東京ひがしクラブが結束していること、それにクレープ焼きの技術を習得したことでしょうか」

一東京ベイサイドクラブのスポンサークラブになったことは。

「生みの親の大変さと、生みの喜びを感じました。特に達成感です。子育ても大事ですね！」

一個人的に、今、時間を割いていることってありますか。

「江東区民農園を借りて、1 区画 4 畳半ほどですが、一般的な野菜作りを楽しんでいます」

一すごい働き者ですね。ありがとうございました。(吉田明弘)

心筋梗塞と食道癌の2つを去年からの1年間で経験してしまった。重大疾患に罹ったときの痛みはさぞ大変だろうと想像していたが、以外にも疾病発見時の痛みは俗に言う「蛙の面に小便」程度であった。今回のダブル疾患が発見された経緯は以下の通りであった。

2014年の6月末に胸の痛みを感じ駅近くの病院で受診した。痛みと言っても苦しさは無く、あばら骨が時々ちくちくと痛む程度であり、「肋間神経痛」程度と診断されると勝手に判断していた。医者診察の結果は「心電図」に異常は無く問題は無いが、もしもに備えて「ニトロ」が調剤された。約1ヵ月後の7月末に同様な痛みを感じ再度同じ病院で受診する。やはり「心電図」に「狭心症」等の異常は無いが、「心筋梗塞」の場合は発作のときしか「心電図」

に異常が出ない。「心筋梗塞」の検査は「カテーテル注入」によるが、同病院では検査ができないので大病院での入院検査が必要とすることで、その場で同区内の病院に紹介入院を余儀なくされた。同日に「カテーテル検査」が実施され「心筋梗塞」が認められ、翌日に4時間に及ぶステントによる動脈拡張回復の手術が実施され、無事一命を取り留めることができた。その後、術後の診察を定期的に受診していた。11月の定期受診の際、再び胸がちくちく痛むので、手術担当の心臓外科医にその旨相談するが、「心電図と血液検査結果では異常が認められない」とのことであった。

今回の「定期検診」でも、時々胸のちくちく痛みがあるので、再び担当医に話すと、やはり「心電図と血液検査結果に異常が認められない」との話であった。そこ

で私は「心臓に異常がなくても、近くの食道等に異常があれば、胸に痛みを感じるのでは？」と問いかけると、担当医はふと気づいたのか、「内視鏡検査を行い消化器官の担当医に見てもらいましょう」とその手続きを直ちに取ってくれた。その結果がその後の大手術に繋がった。心臓外科の医者はステントによる術後が心配のあまり、痛みの原因は心臓にあると思い込んでいた可能性があった。日頃から患者と良心的に接して、気軽に話ができる雰囲気を持った医者で助かった。心筋梗塞の手術前の胸の痛みも、最初から食道癌に起因する痛みだった可能性がある。もしかしたら、食道癌の痛みから、心筋梗塞が発見された可能性もある。痛みは病気によって異なると同時に、人の感じ方でも様々であり、痛みを正確に医師に伝えるのは難しいと感じた。

編集後記にかえて

1983年2月号からブリテンに連載されてきた『こーちゃんのWellness』は、執筆者の堀内浩二さんの体調不良のため、2015年12月号をもって終わり、新年から木原洸さんの『埋もれ木の記』(6回)が始まります。

1980年代初め、ウエルネス思想を、全国のYMCAやワイズメンズクラブが啓蒙し始めていました。『こーちゃんのWellness』は、その推進役でもある東京YMCA体育館のボランティアリーダーの会員・堀内浩二さん(初代会長)にブリテンエディターの故石井一也さんが執筆を勧めて始まったのです。

以来、23年間、毎月欠かさず掲載され、クラブ内外に多くの愛読者がいました。東京西クラブのブリテンは「ウシロから読むブリテン」といわれました。

編集する者にとっては、このスペースを固定しないで、自由に使

いたいと思う時もあります。しかし、東京における皇居と同じようなもので、そこにあることを当然としてレイアウトをしました。

堀内さんは、『こーちゃんのWellness』用の原稿用紙を作られて、ぴったり合わせて送稿されました。しかも、毎月、誰よりも早いので、編集者にとっては目覚まし時計のようなものでした。ここが決まると紙面組みがやりやすく、助かりました。

12、3年前に、石井一也さんが出版しようと提案がされました。しかし堀内さんは、引用文献の記録がないと断られました。

3年前の手術後、思うように回復せず、目を悪くされたことから夜の例会出席はできなくなりました。それでも浅草の東日本区大会の奈良傳賞授賞式では、壇上から大きな声で体操をリードして、会場の参加者を驚かせ喜ばせました。その後も、杉並センターのフィットネスを流れを組む小グ

ループで指導をされていましたが、それも難しくなりました。

昨年7月、50年以上、毎年夏休みに指導しておられた町内のラジオ体操の会に出席したいとトレーニングを始めた矢先に下肢を痛められ、入院、現在は、自宅入院リハビリ中です。お見舞いにかがいましたが、これまで通り、礼儀正しく、気遣いがあり、決してばやかない、いつもの「ウエルネスのこーちゃん」でした。カムバックを心待ちしています。

今月から執筆する木原洸さんも自宅静養中です。シリーズ名『埋もれ木の記』は、幕末の大老・井伊直弼の日記『埋もれ木の記』に通じる彼の思いがあります。直弼は、井伊家の14男として生まれ、仕事を与えられず、自ら「埋もれ木の舎」と呼ぶ家に15年住みましたが、逆境にあっても、「自分の為すべき業がある」と、強い心を持ち続けたそうです。健筆にご期待ください。(吉田明弘)